

# SIDR

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》  
平成 23年 8月  
(第31～34週)

発行年月日：平成23年(2011年)9月14日  
発行：滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 <sup>*1</sup>				感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 <sup>*1</sup>			
		1～7月		8月		1～12月		1～7月				8月		1～12月					
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国				
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	45	0	23	0	133	0	133
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	2	0	0	0	0	4	4
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	0	2	2	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	2	2	
	結核	185	16,909	19	2,637	251	26,704	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	発しんチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0	ボツリヌス症	0	3	0	0	0	0	1	1	
三類	コレラ	0	3	0	3	0	10	0	0	マラリア	0	35	0	10	0	76	0	76	
	細菌性赤痢	2	112	0	38	2	235	0	0	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	36	1,798	20	856	66	4,131	0	3	ライム病	0	3	0	2	0	13	0	13	
	腸チフス	0	13	0	1	0	32	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
	バラチフス	0	16	0	1	1	21	0	0	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
	E型肝炎	0	37	0	4	0	66	0	0	類鼻疽	0	0	0	2	0	4	0	4	
四類	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0	レジオネラ症	8	393	2	66	10	751	0	751	
	A型肝炎	0	138	0	5	3	346	0	5	レプトスピラ症	0	5	0	3	0	20	0	20	
	エキノコックス症	0	11	0	1	0	17	0	0	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0	アメーバ赤痢	2	441	0	71	7	845	0	845	
	オウム病	0	10	0	1	1	11	0	153	ウイルス性肝炎	1	153	0	15	3	222	0	222	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	1	急性脳炎	1	183	0	10	0	241	0	241	
五類	回帰熱	0	0	0	0	0	1	0	6	クリプトスポリジウム症	0	6	0	0	0	16	0	16	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	65	0	15	2	171	0	171	
	Q熱	0	0	0	0	0	2	0	137	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	137	0	12	3	127	0	127	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	3	後天性免疫不全症候群	3	810	0	117	1	1,549	0	1,549	
	コクシオイデス症	0	2	0	0	0	1	1	39	ジアルジア症	1	39	0	5	1	80	0	80	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	7	髄膜炎菌性髄膜炎	0	7	0	0	0	7	0	7	
六類	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	1	先天性風疹症候群	0	1	0	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	3	梅毒	3	427	1	64	9	621	0	621	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	64	破傷風	1	64	0	10	0	106	0	106	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
	チクングニア熱 <sup>(*)</sup>	0	5	0	0	-	-	0	30	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	30	0	7	2	121	0	121	
	つつが虫病	0	157	0	5	2	406	2	272	風しん	2	272	0	32	5	89	0	89	
七類	デング熱	1	50	0	9	2	245	2	372	麻しん	2	372	0	15	1	455	0	455	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	70	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	70	0	1	0	9	0	9	
	動物の感染症	0	0	0	0	0	0	0	14	細菌性赤痢のサル	9	14	0	1	0	59	0	59	
	動物の感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	エキノコックス症の犬	0	0	0	0	0	0	0	0	
	動物の感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	動物の感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
	動物の感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	動物の感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	

(\*)：感染症法の一部改正（平成23年2月1日施行）により、2月からの集計。－：未集計

\*1 感染症発生動向調査事業年報（国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数）

(\*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。－：未集計

\*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

## 滋賀県における全数報告感染症の概要 (8月)

### <結核> 19名

性別：男性 17名、女性 2名

類型：患者 18名

無症状病原体保有者 1名

病型：肺結核 13名

その他の結核 5名

無症状病原体保有者 1名

### <腸管出血性大腸菌感染症>

性別：男性 10名、女性 10名

類型：患者 14名

無症状病原体保有者 6名

年齢：0～9歳 5名、10～19歳 5名

20～29歳 3名、30～39歳 1名

40～49歳 2名、50～59歳 1名

60～69歳 2名、70歳～ 1名

血清型・毒素型：

O157・VT1&VT2 13名

O157・VT1 1名、O157・VT2 2名

O145・VT1 1名、O26・VT1 2名

O不明・VT2 1名

### <レジオネラ症> 男性 58歳、59歳

推定感染経路は水系感染で、推定感染

地域は日本国内です。

### <梅毒> 男性 41歳

推定感染経路は同性間性的接触で、推

定感染地域は日本国内です。また、病型

は早期顕症梅毒です。

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

### 8月の概要

#### <インフルエンザ>

第31～34週(8/1～8/28)の定点当たり患者数は、先月よりさらに減少し0～0.02で推移し、大津市保健所管内からの報告のみでした。

#### <小児科定点疾患>

今月増加した疾患はRSウイルス感染症および百日咳で、他の疾患ではすべて減少していました。特に、咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病およびヘルパンギーナで大幅に減少していました(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

RSウイルス感染症-----例年同時期の発生状況と比較すると、定点当たり患者数はやや多くなり、全国とほぼ同様の傾向を示していました。また、年齢群別の発生状況では、大部分は0～1歳からの報告です。

滋賀県におけるRSウイルス感染症の年次別発生状況は、下記グラフのとおりです。

百日咳-----大津市および東近江保健所管内からの報告が多く、年齢群別発生状況では、0～1歳、2歳および10～14歳から報告されていました。

手足口病-----第26週(6/27～7/3)に県内全域に警報が発令されて以降、第31～40週(8/1～8/28)も警報の発令は継続していました。

ヘルパンギーナ-----第28週(7/11～7/18)に県内全域に警報が発令されましたが、第34週(8/22～8/28)に解除されました。

#### <眼科定点疾患><基幹定点疾患>

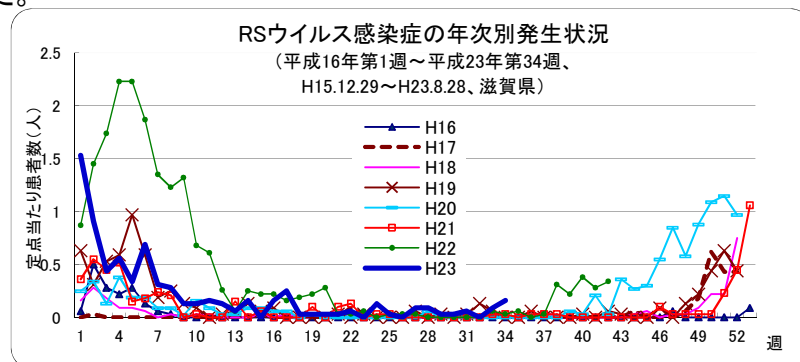
眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より減少しているものの、先月と同様、彦根保健所管内からの報告が多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。

基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎は先月より減少し、今月の報告はありませんでした。マイコプラズマ肺炎は先月よりさらに減少し、大津市保健所管内からの報告のみでした。また、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

#### <疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

#### RSウイルス感染症の 年次別発生状況



#### <各定点の対象疾患>

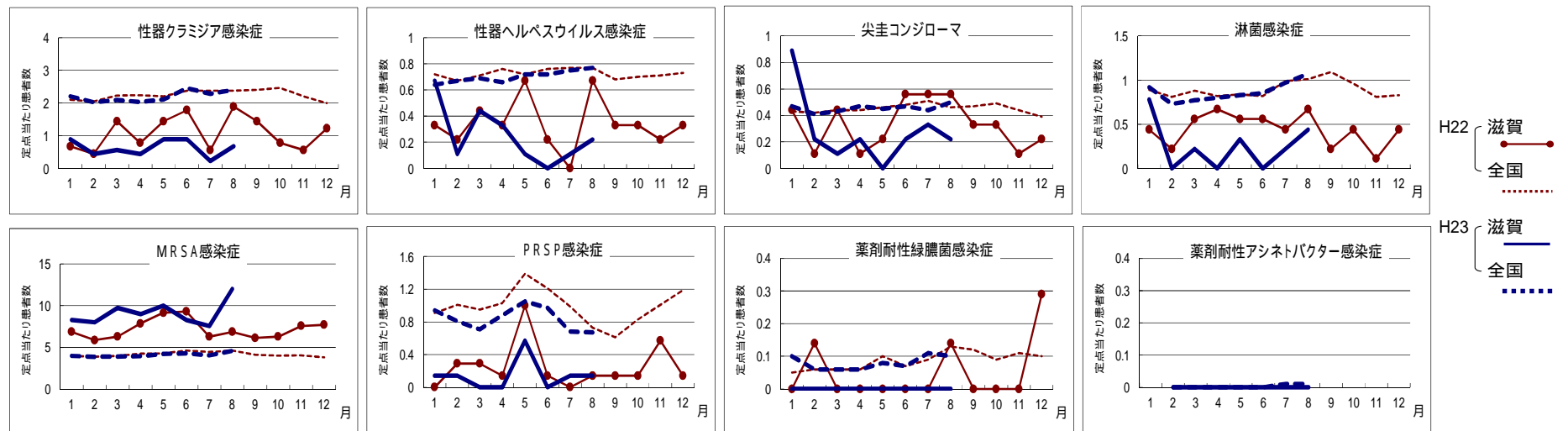
定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

### 3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成23年8月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8	8	2	6					45
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89	0.89	0.22	0.67					5.00
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1	0	1	2					18
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11	0	0.11	0.22					1.99
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0	2	3	2					20
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0	0.22	0.33	0.22					2.21
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3	0	2	4					18
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33	0	0.22	0.44					1.99
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70	58	53	84					510
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00	8.29	7.57	12.00					72.86
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4	0	1	1					8
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57	0	0.14	0.14					1.13
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0	0					0
薬剤耐性 アシネトバクター感染症 <sup>(*)</sup>	報告数	-	0	0	0	0	0	0	0					0
	定点当たり患者数	-	0	0	0	0	0	0	0					0

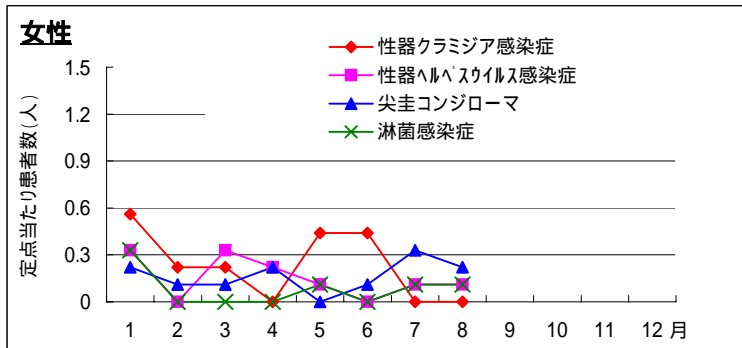
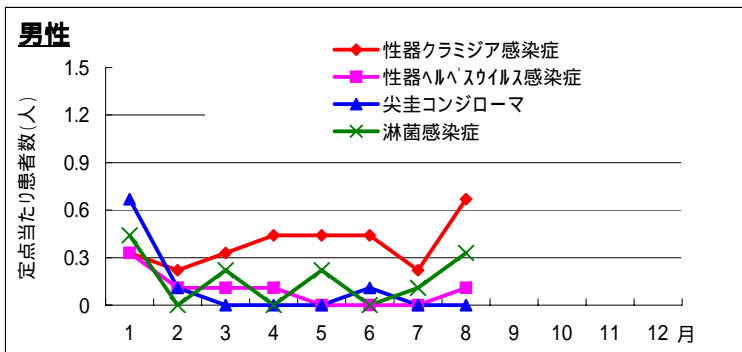
\*: 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 -は未集計。



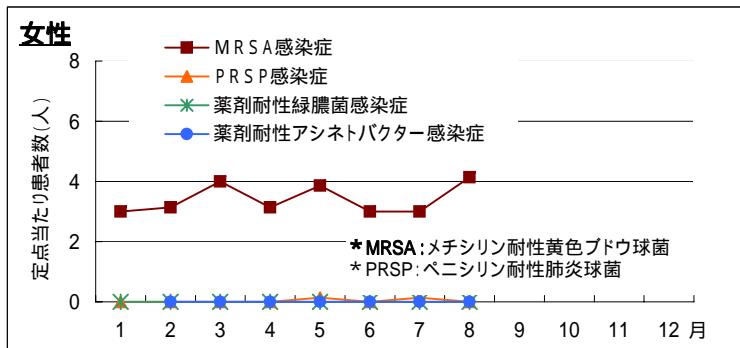
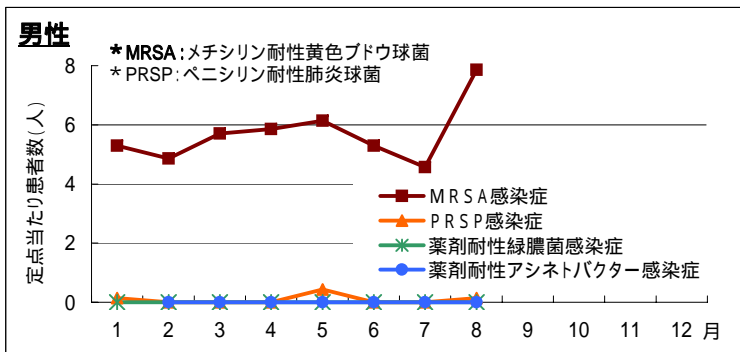
滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症およびMRSA感染症で、減少した疾患は尖圭コンジローマです。また、PRSP感染症は横ばいで、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネトバクター感染症は報告されていません。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

**性感染症定点における疾患別発生状況**  
(H23.8)



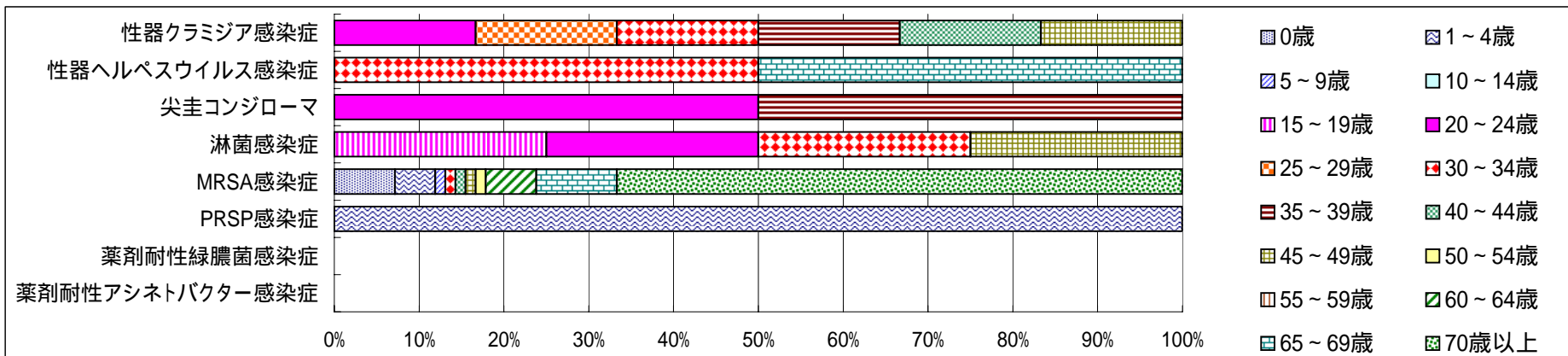
## 基幹定点における疾患別発生状況 (H23.8)



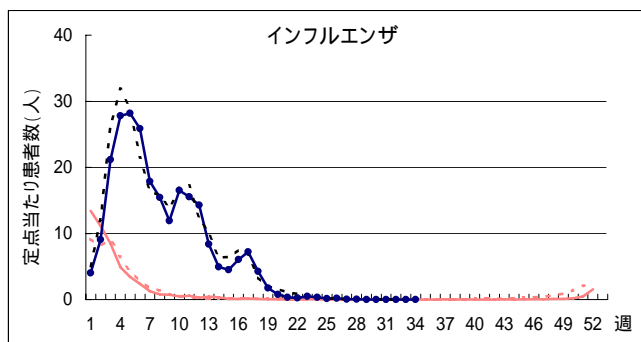
性感染症定点および基  
幹定点における各疾患の  
月別・性別発生状況は、  
左記グラフに示すとおり  
です。男性では、特に性  
器クラミジア感染症およ  
びMRSA感染症で大幅に増  
加し、女性ではMRSA感染  
症で増加していました。  
他の疾患では先月とほぼ  
横ばいでした。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では20～49歳からの報告で、すべて男性でした。また、淋菌感染症では、15～19歳からの報告がありました。

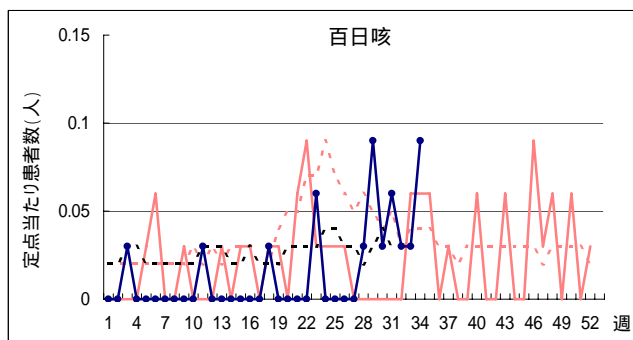
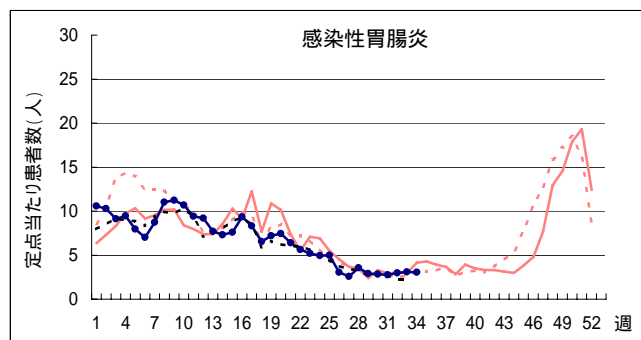
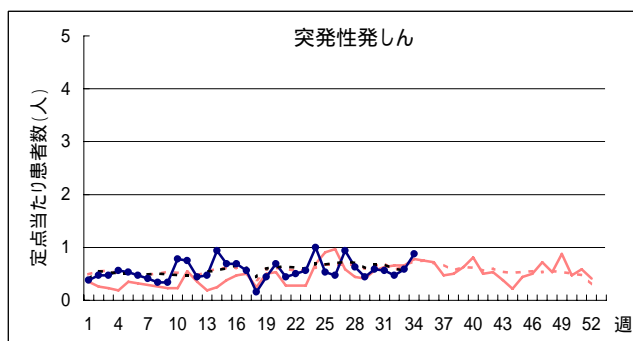
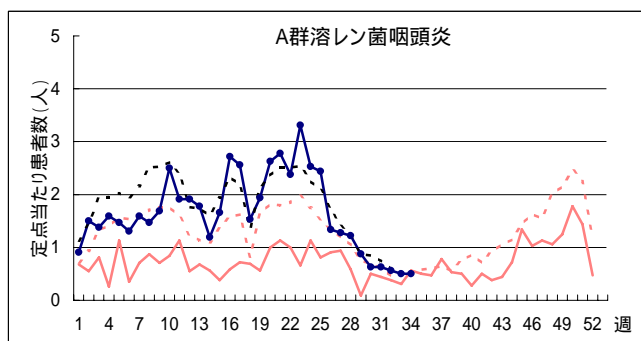
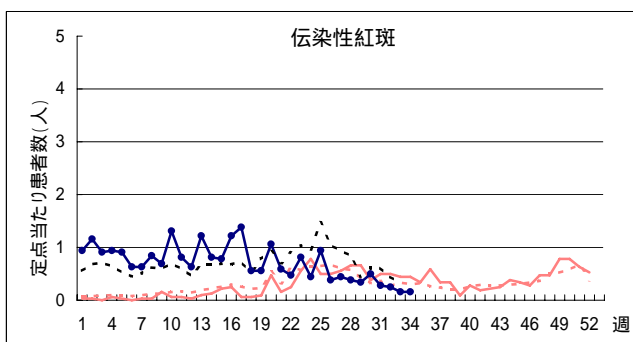
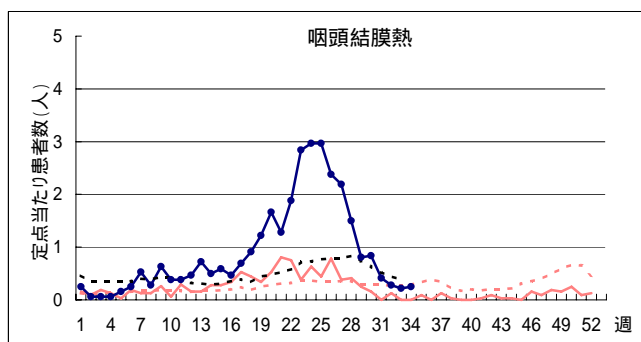
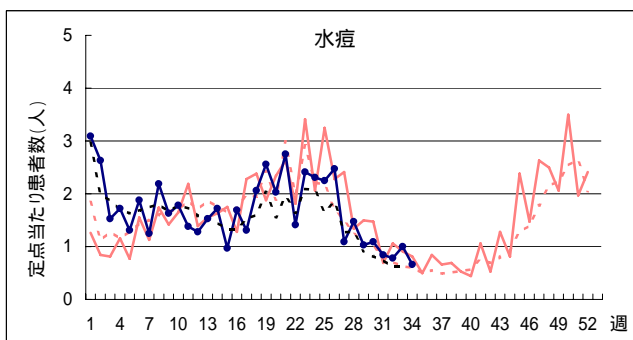
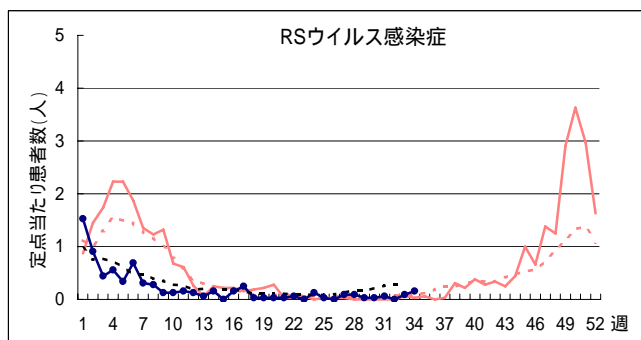
**疾患別・年齢別発生状況 (H23.8)**



# 疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～34週、H23.1.3～H23.8.28)



H22 { 滋賀 ——— 全国 .....  
H23 { 滋賀 —●— 全国 .....



# 疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～34週、H23.1.3～H23.8.28)

